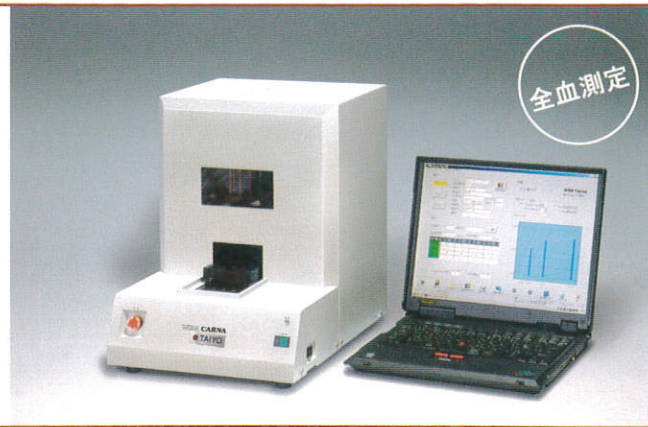
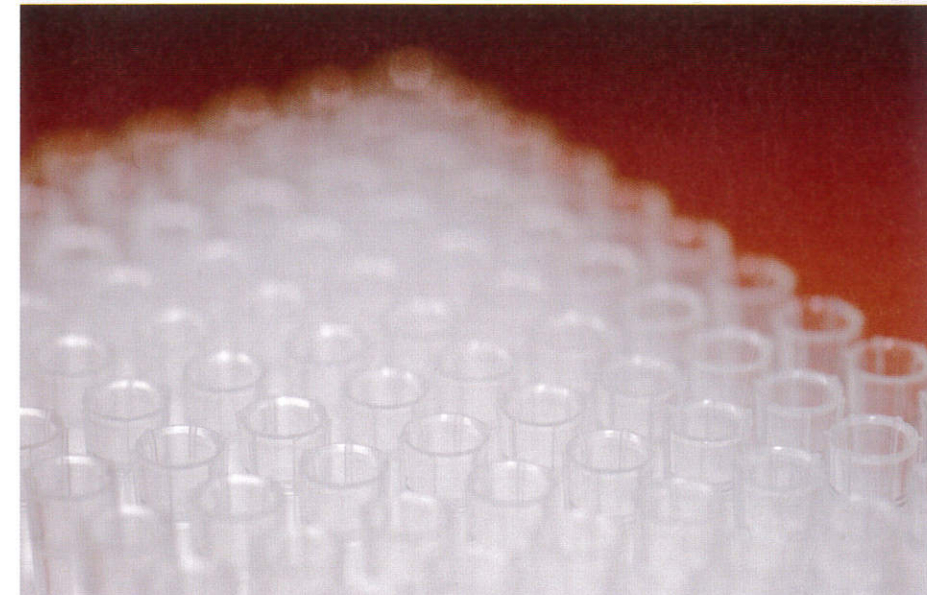


WBA CARNA



主な仕様	
測定原理	SFP変法（細口吸引圧検知方式）
測定方法	測定フィルタチューブによる4濃度同時吸引
センサ	半導体蒸着型差圧センサ
フィルタ	マイクロメッシュフィルタ（20×20μm角型開口300個/φ0.8mm） *30μmフィルタも販売中
解析方法	グレーティングカーブ、PAT I、グレードタイプ判定、吸引圧力
検体性状	全血
測定時間	約7分
測定チャンネル数	4チャンネル
検体量	200μL（1サンプル当り） *200μL以下の測定の場合はご相談ください。
試薬添加方式	ピペット
測定部温度	37±1℃
電源	AC100V、50/60Hz、120VA
寸法	320(幅)×421(奥行)×404(高さ)mm
重量	18Kg
許可番号	27B2X90003000002

標準構成	
TAIYO血小板凝集能測定装置 WBAカルナ本体	1台
カラープリンタ	1台
パーソナルコンピュータ	1台
保冷槽	1台
4連ピペット（4ch ピッチ18mm）	1本
取扱説明書	1冊



30年の歴史から生み出された新世代のSFP法血小板凝集能測定装置。

TAIYO 血小板凝集能測定装置 SFP法 WBA CARNA



製造・販売元

株式会社タイヨウ

〒536-0025 大阪市城東区森之宮2丁目4-29
Tel: 06-6969-2421 / Fax: 06-6969-2422
Email: info@t-taiyo.com URL: www.t-taiyo.com

本商品は予告なく仕様を変更させていただくことがあります

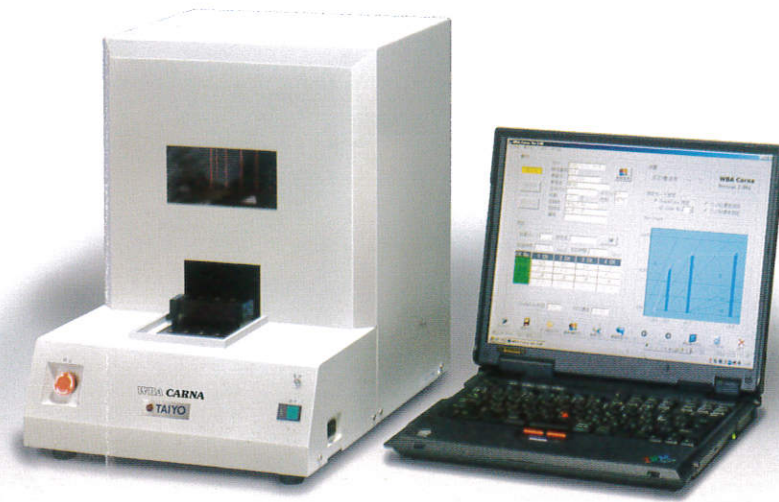


TAIYO Instruments, Inc.

WBA CARNA

TAIYO血小板凝集能測定装置

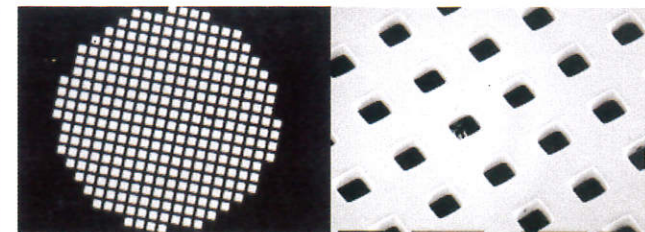
WBAカルナは煩わしいPRP・PPP作成から解放され、より生体内に近いデータをご提供します。従来の血小板凝集能検査は、採血した血液からPRP・PPPを分離する煩雑な操作により、測定に入る前から血小板機能に何らかの影響を与えているのではと考えられています。WBAカルナは全血検体を直接測定することにより、この問題を一挙に解決しました。



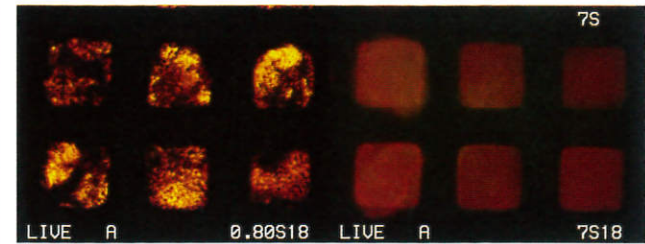
*カルナ【Carna】とは、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神の名称です。

測定原理(SFP法: screen filtration pressure)

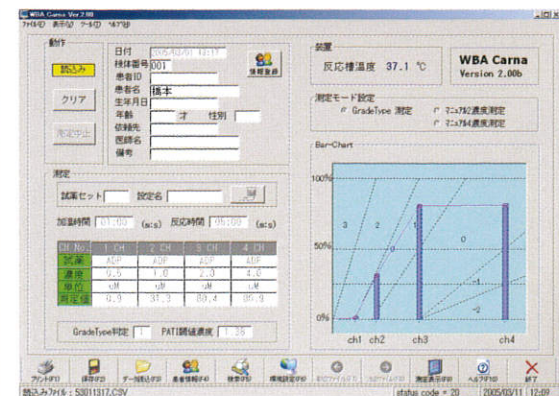
- ★ 全血800 μ L(4ch)で測定可能です。
 - ★ 測定結果表示まで測定時間は約7分です。
 - ★ 4濃度の検体を同時吸引するため試薬反応時間は均一であり、安定したデータが得られます。
 - ★ 附属PC制御で統計処理も簡便です。
- * 200 μ L以下の測定の場合はご相談ください。



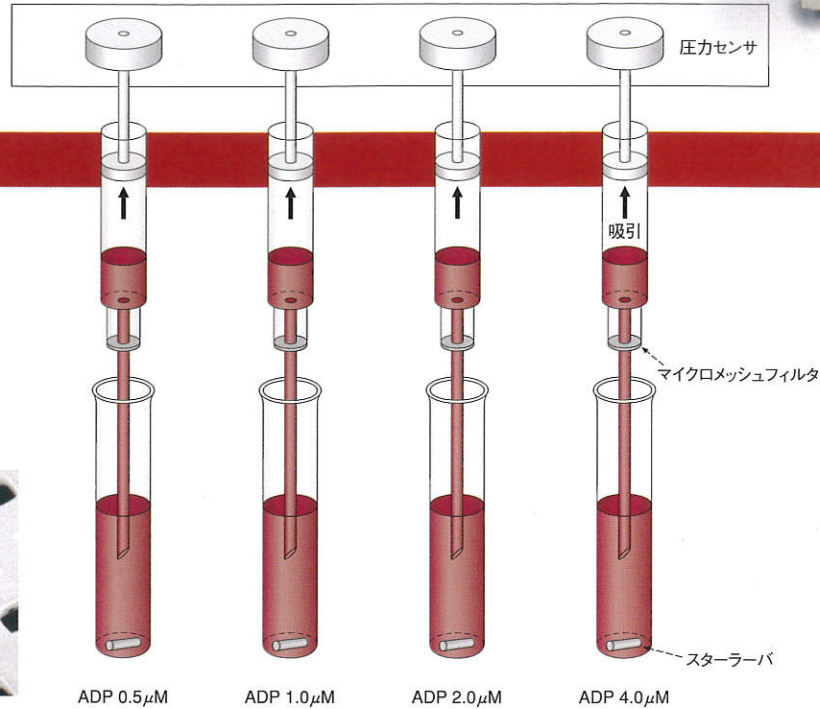
マイクロメッシュフィルタ 直径0.8mmの範囲に20 \times 20 μ m角穴が300個



マイクロメッシュフィルタに血小板凝集塊が付着した状態 (提供: 鹿児島大学薬学部)



結果表示



- ★ 評価・測定方法はグレードタイプ判定とPATI値(閾値)。
- ★ 解りやすく見やすい結果表示。
- ★ 吸引圧を経時的に確認できます。
- ★ 吸引圧力表示付きの報告書。

報告書

血小板凝集能検査				
検査番号:010		患者ID:		
氏名: 橋本様		31歳		
依頼先:		医師名:		
備考:				
加温時間: 01:00(m:s)		反応時間: 05:00(m:s)		
チャンネル番号	1CH	2CH	3CH	4CH
試薬	ADP	ADP	ADP	ADP
濃度	0.5	1.0	2.0	4.0
単位	μ M	μ M	μ M	μ M
測定値	00.0	00.0	79.6	80.2

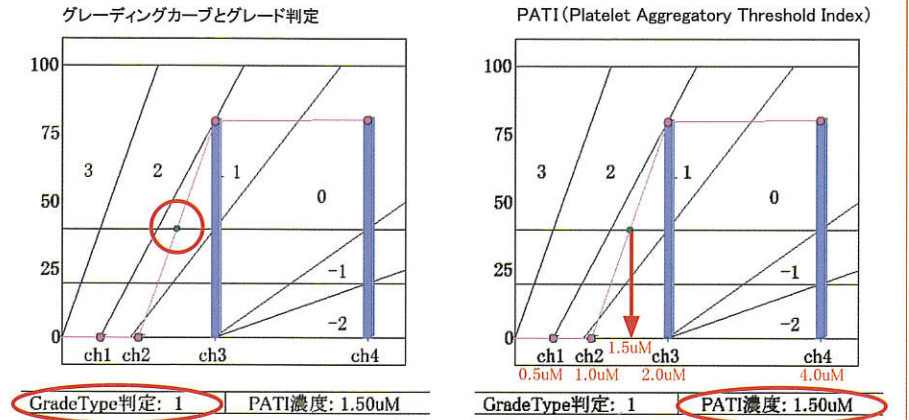
GradeType判定: 1 PATI濃度: 1.50uM

解析ソフト: グレーディングカーブ・PATI(Platelet Aggregatory Threshold Index)

グレーディングカーブとグレード判定

4濃度の惹起物質で測定し得られた棒グラフの頂点を、各チャンネルで結んだのが赤いラインであり、グレードの判定は圧力値40%で交差した点が、-2から3までのグレードゾーンでどこかに位置しているのかにより判定されます。

PATI(Platelet Aggregatory Threshold Index) 二次凝集(不可逆的凝集)を得る惹起物質の最低必要濃度のことを意味しています。これはグレーディングカーブと圧力値40%のラインが交差する点を、PATI濃度として算出します。



グレードタイプ判定

グレードタイプ判定を行うことにより、循環器系疾患の心筋梗塞・狭心症・グラフト閉塞・ステント術、脳血管障害の脳梗塞・動脈瘤コイル術・閉塞性動脈硬化・脳卒中等の防止、および術前術後管理に投与される様々な抗血小板薬のコントロールと管理の判断を簡単に行うことができます。

(注)グレードタイプ判定はあくまで、医師の判断をサポートするためのものであり、最終的な投与量の判定は診断する医師の総合的な判断が必要となりますのでご了承ください。

Type	判定	薬効評価	投与量
+3	強度の亢進	薬剤の効果(投与量)不足 =薬剤増量	↑↑
+2	中程度の亢進	薬剤の効果(投与量)不足 =薬剤増量または現状維持	↑↑/→
+1	普通・軽度の亢進	薬剤の効果(投与量)やや不足 =薬剤微調整または現状維持	↑/→
±0	普通	薬剤の効果(投与量)が適度 =現状維持	→
-1	軽度の低下	薬剤の効果(投与量)がやや過度 =薬剤微調整または現状維持	↓/→
-2	強度の低下	薬剤の効果(投与量)が過度 =薬剤減量	↓